

“結愛” ~ゆい~

発刊責任
訪問リハ室

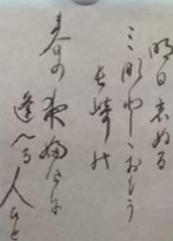
『職員紹介』

今年の4月から訪問リハビリテーション室に配属となりました、作業療法士の佐藤光隆(さとうみつたか)と申します。出身地は四国の愛媛県で、八幡浜という漁業と農業(みかん)が盛んな田舎で育ちました。作業療法士としての経験は18年目になり、これまで様々な疾患を抱えられた多くの方々との機会をいただけてきました。その中で私が大切にしているテーマは『心のケアもリハビリ』ということです。ご自宅での生活を送るにあたり、身体面だけではなく精神的なご負担を抱えられている方も多くいらっしゃると思います。ご家族を含めて精神的な部分でも支えになることができる作業療法士になることが今の目標です。在宅での生活を出来るだけ長く安心して過ごしていただく為のお手伝い出来るよう頑張らせていただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。



『利用者の声』 (訪問リハビリテーション室 網干 隼人)

今回は訪問リハビリをご利用されているS様に今までの経緯及び訪問リハビリの感想を直筆で頂きましたので紹介します。「初めまして、78歳のおばあさんです。約1年8カ月の入院生活から去年7月に退院しました。腹水、全身のむくみ、下半身の強い痺れ・痛み、両手の痺れ・ふるえ、臓器障害、栄養失調などで顔や体つきは、おばけの様な姿になってしまいました。病名が分からず病状が悪化していきましたが、去年5月にポエムズ症候群と分かり、山梨県では私が第1号だそうです。始めは、全介助状態のため家族が付きっきりで看病・介護の毎日でしたが、合う薬も見つかり少しずつ快方に向かっています。病院の先生始め、地域の専門職の方々には大変お世話になり感謝しています。そして訪問リハビリが始まり、補助具で歩けるようになり、趣味の書道もふるえる手で書けるようになりました。食事も補助具を使い食べられています。リハビリっですごいですね！今もやりたいこと、出来る事を頑張るためにリハビリの先生の下、楽しくやっていますのでこれからもよろしくお願い致します。」と感想を頂きました。これからももっとやりたいことや出来る事を増やせるように一緒に頑張りましょう！



『熱中症対策ワンポイントアドバイス』

季節外れの暑さもあり熱中症予防も早めに行うため、今回は水分補給について紹介します。

【1日の排泄量】

体重や運動量にもよりますが、約2L~2.5Lの水分が尿や汗などにより失われています。

【水分補給】

水、麦茶、経口補水液、スポーツドリンクが適しており、緑茶、紅茶、コーヒー、アルコール類は利尿作用(尿が出やすくなること)があるため水分補給としてはあまり適していません。水分補給をするタイミングとしては、のどが渇く前に！入浴前後や起床時に！リハビリの前後に！など日頃から水分補給を心がけ脱水症状や熱中症予防を行っていきましょう！